広報
中部の森林（もり）

国民の森林・国有林
中部森林管理局
〒380-8575長野市大字栗田715-5
☎050-3160-6513
http://rinya.maff.go.jp/chubu/

長野県木曽郡上松町　国有林内　温帯性針葉樹林

3百年先の未来の森林を目指して！

木曽地方の温帯性針葉樹林の保存・復元に向けた取組検討報告書が提出される

（Ｐ２に関連記事）

主な項目	
	○木曽地方の温帯性針葉樹林の保存・復元に向けた取組検討報告 …………… P2
	○平成25年度治山・林道工事コンクール表彰式開催 ………………………… P3～4
	○各地からのたより ……………………………………………………… P5～6
	○シリーズ「森林官からの便り」 …………………………………………… P6～7
	○シリーズ「ご当地自慢」 ………………………………………………… P8

木曽地方の温帯性針葉樹林の保存・復元に向けた取組検討報告

【計画課】中部局では、平成二十五年度重点取組の一つとして木曽地方（今回の取組では、長野県内の木曽谷及び岐阜県内の裏木曽を指します）の温帯性針葉樹林の保存・復元に向けた取組の検討を進めてきました。

温帯性針葉樹とは、木曽五木（ヒノキ、サワラ、コウヤマキ、ヒバ、ネズコ）にスギ、ツガ等が含まれます。陸乾燥地の拡大や氷河期の顕在化など地球環境の変化による衰退とその後の文明の発達に伴う造船材や建築材等としての利用により、世界の温帯性針葉樹林は次第に姿を消していきました。

こうした中にあって、現在も温帯性針葉樹がまとまって自然度の高い状態を構成している木曽地方の針葉樹林は非常に貴重なものとなっています。

このため、本年度からこれを保存していくための取組を始めることとしました。本年度は有識者や地元関係者等に検討委員をお願いし、取り組む方向について検討を行ってきました。三回目となる三月四日の検討委員会で報告書（案）が了承され、山本進一座長（名古屋大学名誉教授）から鈴木局長に報告されました。

報告書の概要は次のとおりです。

山本座長から鈴木局長へ報告書の提出をいただく

対象は、長野県の上松町、大桑村、王滝村と岐阜県の中津川市に所在する国有林で、面積は木曽地方の国有林野約九万八千ヘクタールの十七パーセントに当たる一万六千五百七十九ヘクタール。

大きな特徴は、木曽地方の森林は既に多くが人工林に転換され、人工林と天然林がモザイク状に配置されていることから、長期にわたって温帯性針葉樹林を維持していくために天然林の間に存在する人工林を天然林へ誘導する温帯性針葉樹林の復元に合わせて取り組むことです。

このため、従前の保護林にあたる「温帯性針葉樹林を厳格に保存」する区域に、将来はこれと同様の森林になり得る区域、さらには、外部からの影響の緩和と、森林資源の持続的利用を行う区域を加え、三層構造の区域を設定することとしています。

具体には、温帯性針葉樹を厳正に保存する区域（核心地域（コアａ））、人工林の天然林への誘導を通じて温帯性針葉樹林の復元を図る区域（核心地域（コアｂ））、保存・復元に取り組む区域に対する区域外からの影響を緩和するとともに森林資源を利用する区域への移行地域となる区域（緩衝地域）の三つの区域に区分した上で、それぞれの区域毎の森林の取扱い方針を示すこととしています。

検討委員会での審議の結果、方針、方向性について、関係者間で合意形成することができました。

第三回検討会の様子

今後、取組を進めるに当たっては、この地域が木曽ヒノキの中心的産地であることから、国民的な伝統行事や国宝・重要文化財等歴史的建造物の修復等への対応が必要になります。また、未立木地の取扱いや、確度の高い天然更新技術等の課題をクリアする必要があります。このため、これらの課題解決に向け、管理委員会を設置し検討を進めていくこととしています。

課題も多い中でのスタートですが、三百年以上先の未来の森林を目指す、夢のある取組でもあります。また、非常に長い期間をかけて進めていかなければならないことから、国有林職員のみならず大学やＮＰＯ、地元等多くの方々の協力を得ながら進めていく取組になると考えています。

取組区域の森林

平成二十五年度治山・林道工事
コンクール表彰式開催

【治山課・森林整備課】平成二十五年度治山・林道工事コンクール表彰式を、三月六日に中部森林管理局において実施しました。

　このコンクールは、国有林野の公益的機能を十分に発揮させ、森林林業の再生の推進その他の事業実施における施策効果を一層発現させることに貢献した治山・林道工事であって、民有林の模範としてふさわしいものを表彰することにより、治山・林道工事における計画、設計・施工の適正化及び設計・施工技術の向上、並びに関係者の意欲高揚に資することを目的に治山部門は昭和四十二年度、林道部門は昭和四十四年度から実施しています。

計画保全部長講評

　前年度に中部森林管理局管内で施工した、治山工事百四十八件、林道等工事十五件を対象に施工管理全般及び安全管理について審査を行い、治山部門で十四件、林道部門で六件を優良工事として選出し、この中から、優秀工事として治山部門三件・林道部門二件を林野庁表彰に推薦し、林道部門で農林水産大臣賞を受賞、ほか四件が林野庁長官賞を受賞しました。

　また、優良工事として選出した、治山部門の十一件、林道部門の四件と、農林水産大臣賞及び林野庁長官賞を受賞した工事の現場代理人、主任技術者並びに監督職員が中部森林管理局長賞を受賞しました。

　表彰式は、角計画保全部長が審査結果の報告を行った後、鈴木局長から受賞者に表彰状が授与されました。

受賞者を代表してのご挨拶「富貴屋建設㈱」

　なお、農林水産大臣賞及び林野庁長官賞の授与式は局長表彰に先立ち、二月二十四日林野庁において行われました。

　各賞の受賞者は次のとおりです。

◎農林水産大臣賞

【林道工事部門】

◇大山土木株式会社　（高山市）

東俣谷林業専用道新設工事　〈飛騨署〉

東俣谷林業専用道新設工事　完成状況

◎林野庁長官賞

【治山工事部門】

◇株式会社高宮組　（松本市）

ワラビ沢（２）災害関連緊急治山工事　〈中信署〉

◇大協建設株式会社　（大鹿村）

鳶ヶ巣復旧治山工事　〈伊那谷総合〉

◇今泉建設株式会社　（岡崎市）

闇苅（男川支渓）復旧治山工事　〈愛知所〉

鳶ヶ巣復旧治山工事　完成状況

闇苅（男川支渓）復旧治山工事　完成状況

〔林道工事部門〕

◇奥田工業株式会社　（大桑村）
白川支線林業専用道新設工事　（木曽署）

◎中部森林管理局長賞

〔治山工事部門〕

◇大高建設株式会社　（黒部市）
松尾谷復旧治山工事　（富山署）

◇信州林業株式会社　（長野市）
西ノ沢復旧治山工事　（北信署）

◇株式会社牛木組　（上越市）
ウド川地すべり防止工事　（中信署）

◇富貴屋建設株式会社　（駒ヶ根市）
瀬戸沢復旧治山工事　（南信署）

◇スワテック建設株式会社　（諏訪市）
平成二十四年度瀬戸沢復旧治山工事　（南信署）

◇大宗土建株式会社　（南木曽町）
南沢水源地域整備工事　（南木曽支署）

◇協業組合H・C建設　（飛騨市）
舟原山（栃洞谷支渓）復旧治山工事　（飛騨署）

◇株式会社清水建設　（飛騨市）
大谷（脇谷橋）復旧治山工事　（飛騨署）

◇株式会社梅田組　（下呂市）
乗政（第二無線谷）復旧治山工事　（岐阜署）

◇株式会社加地工務店　（中津川市）
出の小路（二本木谷外1）復旧治山工事　（東濃署）

◇有限会社共和土木　（恵那市）
上矢作（乗越沢）水源地域整備工事　（東濃署）

〔林道工事部門〕

◇株式会社羽田組　（長和町）
男女倉林業専用道新設工事　（東信署）

◇吉川建設株式会社　（飯田市）
割沢治山運搬路新設工事　（伊那谷総合）

◇森建設株式会社　（高山市）
一色第二林業専用道新設工事　（飛騨署）

◇松田建設株式会社　（下呂市）
伊勢谷林業専用道新設工事　（岐阜署）

伊勢谷林業専用道新設工事　完成状況

〔現場代理人・主任技術者及び監督職員部門〕

◇東俣谷林業専用道新設工事
大山土木株式会社
現場代理人　橋本　雅広
主任技術者　翠尾　恭介
飛騨森林管理署
監督職員　亀井　盛孝

◇ワラビ沢（2）災害関連緊急治山工事
株式会社高宮組
現場代理人　田上今朝幸
主任技術者　齋藤　文雄
中信森林管理署
監督職員　小田切英市

◇鳶ヶ巣復旧治山工事
大協建設株式会社
現場代理人　古田　章
主任技術者　久保田　弘
伊那谷総合治山事業所
監督職員　冨谷　好生

◇闇苅（男川支渓）復旧治山工事
今泉建設株式会社
現場代理人　藤城　明義
主任技術者　徳枡　克始
愛知森林管理事務所
監督職員　吉原　浩司

◇白川支線林業専用道新設工事
奥田工業株式会社
主任技術者　新井　新作
木曽森林管理署
監督職員　古畑　輝雄

長野県林業大学校 インターンシップ等研修 発表会が開催される

〔総務課〕二月十四日に、長野県木曽郡木曽町の長野県林業大学校では、二年生十九名がインターンシップ等で体験し、学んだことを各自発表するインターンシップ等研修発表会が開催されました。

中部森林管理局インターンシップに平成二十五年度は六署で、学校五校から学生十六名を受け入れ、うち長野県林業大学校からは、木曽署に一名、中信署に一名、南信署に一名を受け入れました。

この三名が、それぞれの署でのインターンシップの体験を発表しました。

城内優希さんは木曽署での体験を発表、特に長野県西部地震治山施工地での見学や森林整備ボランティア指導を行い、森林に見事に復旧している被災地への復旧努力と下流の皆さんのボランティアによる活動に心を打たれたとの発表がありました。

城内優希さんの発表

野中恵介さんは中信署での体験を発表、特に低コスト・高作業システムによる森林作業道作設が林地環境にも負荷がかからない設計等が重要との発表がありました。

野中恵介さんの発表

米山雄樹さんは南信署での体験を発表、特にニホンジカ被害対策は広域的な地域連携等が必要との発表がありました。

中部局以外のインターンシップ等に参加された学生からも様々な発表があり、今後就職により各職場での活躍が期待されます。

今後も、中部局では学生が国有林野事業の実際の行政事務に接することにより、学生の意欲を喚起し高い職業意識を育成するとともに、国有林野事業及び林野行政に対する理解を深めてもらうことを目的として、インターンシップを継続していくこととしています。

各地からのたより

特別司法警察職員講習会を実施

【東濃署】三月六日、東濃署において、飛騨署・岐阜署・東濃署の三署合同による特別司法警察職員を対象とした講習会を開催し、三十一名が参加しました。

講師には岐阜県中津川警察署生活安全課長川瀬達也氏を招き、特別司法警察職員の立場、一般司法警察職員との違い、森林窃盗・不法投棄の対処方法等について、講師自らの体験等を交えながら分かりやすい講習を受けました。

講習会の様子

また、高山植物の窃盗については、高山植物を採取した人が、違法性を認識していなければ犯罪にならないこと、犯罪の未然防止のためにも、立て看板の設置・チラシの配布等一般の人々に周知することが重要であることを学ぶとともに、実際に事案が発生した場合には、地元警察と連携して対応することが大切であることを学びました。

「高齢級人工林ヒノキのブランド化」を地域イベントでPR

【木曽署】三月一日に上松技術専門校において、「ひのきの里の技能祭」（以下技能祭）が開催されました。

上松技術専門校は昭和二十一年に長野県上松職業補導所として開設され、現在では木工科、木材造形科の二科四十名が在学し、全国各地から集まった様々な年代の訓練生が木製家具、ろくろ、竹細工等の製作技術について学んでいます。

この技能祭では訓練生が作製した大型家具をはじめとした木工品を展示し、来場者に抽選のうえ販売しています。一般に販売されている家具より安価で購入できることから、地元はもとより全国各地から多くの方々が訪れ、毎年盛大に開催されており、今年は約五百名が来場されました。

当署では木曽官材市売協同組合と合同で「マルコウマルコク木曽ひのき」のスライドショーやパンフレットの配布、パネル掲示と木工品や丸太の展示等PRを行いました。

展示の様子

来訪者からは「木曽の人工林ヒノキも年輪が詰まって良い木になっている」「木曽といえば天然ヒノキとしかイメージがなかったが、人工林ヒノキも良いものだ」等の感想も聞かれ、一般の方々にも広く情報発信することができました。

今後も、積極的に地域イベント等へ参画し、関連する団体と連携しながら国有林野事業の取り組みをPRしていくこととしています。

平成二十六年度事業に向けての取組

【東濃署】 東濃署では、二月二十日から二十一日の二日間にわたり、第四四半期の取組課題の一つである「平成二十六年度の収穫・生産・販売事業に係る技術・精度等の向上」について、署長を始め全職員を対象に座学・見学・検討会を実施しました。

座学として次長から「なぜ低コストなのか」について一時間程度講義を受けた後、局・技センを含め総勢三十三名が参加して、管内にある内陸型国内初の「森の合板工場（平成二十三年本格稼働）」において、当署から生産された木材が製品として出荷されるまでの工程を見学しました。エンドユーザーとして国産材の安定供給に期待する切実な現場の声も聞かせて頂き、計画的な事業実行の責任を感じました。また、治山グループでは「国産針葉樹型枠合板の利用推進」という課題に更に一歩足を進める機会となりました。

合板工場見学の様子

低コスト現地検討会の様子

二日目の「低コスト事業実現に向けた現地検討会」では、地形・地質から路網系に馴染みにくい現地で、最大限路網を活用することにより低コストな作業システムを如何に実現するかについて、森林官、地域技術官、森林技術員も参加して検討を行いました。外部講師として、その道の先駆けで全国各地で技術指導を行っている森杜産業㈱田邊氏を招き、林内に雪の残る次年度伐採系森林整備事業地を一緒に歩いて、路網の線形を実際に入れる作業などを指導頂き、低コストな作業システムでの事業発注等の参考となる有意義な取組を行うことができました。

シリーズ「森林官からの便り」

【北信署　野沢森林事務所】

重松千晶　森林官

野沢森林事務所は長野県のほぼ最北端に位置し、日本でも指折りの豪雪地帯である野沢温泉村に所在します。国有林は新潟県との県境稜線部が大部分を占め、約四千五百ヘクタールの森林面積を管理しています。国有林の多くは地域の重要な水源かん養林となっており、国有林内の水尾山から湧き出た水を使って造られた日本酒「水尾」は、後味の切れが良く、多くの日本酒ファンを魅了しています。

野沢森林事務所管内には良質な雪で有名な野沢温泉スキー場、戸狩温泉スキー場があり、毎年多くのスキーヤーが訪れ、村内にある無料の立ち寄り湯と共に長野県内でも人気の観光地となっています。近年はオーストラリアなど海外から長期滞在でスキーを楽しむ方も多く、先日は業務終了後に森林事務所近くの立ち寄り湯に行った際、入浴者が全員海外からの観光客であり、村にいながらインターナショナルな空気を味わうことができました。

攻防の末、火が点けられた道祖神祭り社殿

生産事業における安全指導

野沢温泉村では日本三大火祭りの一つに数えられている「道祖神祭り」が毎年一月十五日に開催されます。その社殿の一部に使われるブナ材の供給を村と協定を結んで行っています。管内には、こうした地域との連携を必要とする業務も多くあります。

管内の植生はブナの天然林が多く存在し、新潟との県境を歩く信越トレイルは北信署、上越署、地元ＮＰＯとの協定により整備され、春にはブナの新緑やギフチョウなど、自然の豊かな風景を見ることができます。また、巨木百選にも選ばれたブナの大樹である「森太郎」が存在し、秋の紅葉も雪の情景も美しく、四季を通じて訪れた人に楽しんでいただいています。こうしたトレイル内に危険木がないか、適切な利用はされているか、などの点検業務も日々行っています。

非常勤職員との巡検用務

赴任当初は、雪深い奥地の村でうまくやっていけるのだろうかと不安も多くありましたが、村民でもある非常勤職員の方々に支えられ、巡検用務や地域との対応などスムーズに事業を進行させることができています。また、無理だと思っていた大型除雪機の運転も、ご近所の方から褒められるまで上達しました。

豪雪地帯であり、現場業務を行える時間が限られてしまう地域ではありますが、来年度は、複層伐を実施した箇所でコンテナ苗の植栽を行うなど、新たな取組をする中で、業務を計画的に、そしてやる前から諦めることなく、今後も森林官業務を邁進していきたいと思います。

使用している除雪機

人のうごき

中部森林管理局人事　二月二十八日付

退職

▽（岐阜森林管理署　署付）　生駒　豊文

お悔やみ申し上げます

故　日下部　道人　氏

伊那谷総合治山事業所　経理係長

農林水産技官　日下部道人氏は二月二十日に、ご逝去されました。

日下部氏は経理課、東濃署、飛騨署、岐阜署、技術センター、伊那谷総合治山事業所等に勤務され、活躍されてきました。

謹んでご冥福をお祈りいたします。

ご当地自慢 11

木曽馬とへぎ板

木曽森林管理署

◇木曽馬（きそうま）

平成二十六年の干支である馬にちなみ「木曽馬」を紹介します。

木曽馬は長野県木曽地域（木曽郡）を中心に飼育されている日本在来種の馬で、本州では唯一の在来種です。

昭和三十年代頃まで農耕用や木材の運搬に活用されてきましたが、昭和四十年代以降、耕運機の普及等で木曽馬を飼う農家が減少し、木材の搬出も林業機械に代わり馬搬（ばはん）をする人もいなくなりました。

木曽馬

木曽郡木曽町開田高原では、昭和四十四年に木曽馬保存会が設立され、一時絶滅寸前であった「木曽馬」の飼育・保存に取り組み、現在では百六十頭程度まで増えてきています。

木曽郡木曽町開田高原にある「木曽馬の里・乗馬センター」には、約三十頭が飼育され、乗馬体験など観光客の人気を集めています。

木曽馬の放牧

最近では馬搬（ばはん）を復活させようとする試みが始まり、木曽馬が運んだ木材を使った木製品を作るなど、木材産地ならではの文化と木曽馬保存に対する関心を高め、地域活性化につなげたいと取り組んでいます。

アクセス方法

［公共交通機関］

ＪＲ中央西線木曽福島駅より、おんたけ交通バスで約三〇分

［自家用車］

中央自動車道中津川ＩＣ～国道十九号線経由約一時間三〇分、長野自動車道塩尻ＩＣ～国道十九号線経由約五〇分

◇へぎ板

へぎ板は木の繊維を壊さず、削らずに手で割って、厚さ一ミリ以下まで薄くして作られる板です。年が経つにつれ艶がでてきます。

数百年生の天然木で目がつまったものでないと、へぎ板を作ることはできません。木曽はヒノキが知られていますが、黒部（くろべ）別名ネズコ、サワラと粘りのある良い木があり、これがヘギ板には一番の適材です。

へぎ板の製作の様子

この技術は、古くから茶室などの室内装飾に用いられてきた伝統的な技術ですが、機械の普及などもあり、今では木曽谷でヘギ板を作れるのは二人の職人となってしまいました。

木や竹を編んでゆく「網代細工（あじろざいく）」は各地に伝承されていますが、一本の丸太から「へぎ板」を作製し、細工によって天井や衝立等の完成品に至るまでの技術を持つ職人さんは、今や国内で長野県木曽郡上松町「小林ヘギ板店」の小林鶴三さんのみとなりました。小林さんは林野庁の「日本　森の名手・名人」に認定されています。

網代細工

アクセス方法

［公共交通機関］

ＪＲ中央西線上松駅下車

［自家用車］

中央自動車道中津川ＩＣ～国道十九号線経由約一時間、長野自動車道塩尻ＩＣ～国道十九号線経由約五〇分